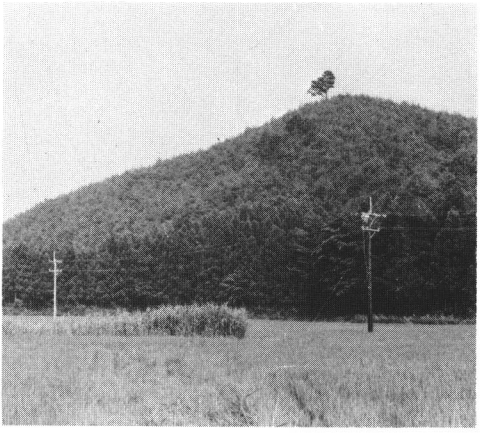
守ッ子塚の伝説

《滝》

滝本郷から岩瀬村梅田に行く県道すじに、通称守ッ子塚といわれるところがある。

昔、滝部落の某家に子守奉公人の娘がいた。どこから来た娘か、名前は何といったのかはわからない。

娘は子守をしながら、野良に出されて、こきつかわれたという。時折り娘の泣声があちこちの田畑から聞かれたという。働きが悪いといってはさいづち(げんのう)で頭をなぐり、子どもを泣かすといっては娘をかじった(かみついた)という。ある秋の取り入れの頃、田圃に出て働いた娘は働きがわるいといっては、ぶったりけったりされて殺されたといわれる。



守ッ子塚の遠景

村人たちは、なぶりころされたこの娘をふびんに思い、殺された場所に塚を造り娘の霊をとむらってやった。

それから、だれいうとなく、この塚を「守ッ子塚」と呼ぶようになった。現在、塚はなく荒涼とした野原には雑草だけが茂り、風になびくすゝきが生家を恋しながら死んでいった娘のように、かぼそくゆれているのみである。

(話者　江連　栄)